



議会たより

No.104
平成26年7月17日

松崎

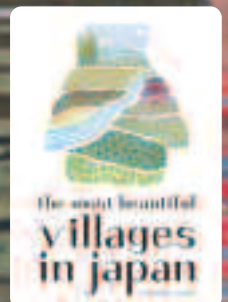


夏到来(岩科園川遊び)

《主な内容》

第2回定例会 (6月10日～6月11日)

平成26年度補正予算	2
平成25年度企業会計	3
議員会町内視察	4
町政を問う 一般質問に5議員	6



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

平成26年6月定例会

平成26年第2回定例会を6月10日から11日までの2日間にわたり開催しました。

本定例会では、町当局から平成26年度補正予算など12議案が提出され、すべて承認・可決しました。

一般会計補正予算

補正予算(第1号)は、歳入歳出それぞれ3276万円を増額し、補正後の額を35億4776万円とした。

問 水道橋架替工事設計業務委託を増額した理由は。

答 産業建設課長 当初考えていた施工方法では、現場での対応が難しいことが判明したため、他の施工方法に変更した。その結果、当初の見込みより事業量が増えて設計額が増額となった。

問 社会保障・税番号制度システムの情報保護対策は。

答 総務課長 システム

では、全国一律に情報の収集・保管や特定個人情報ファイルの作成が禁止される。情報提供も番号法に規定するもの以外は原則禁止され、民間事業者は情報提供ネットワークシステムを使用できない仕組みとなっている。

社会保障・税番号制度とは
国民一人ひとりに番号を割り振り、社会保障や税に関する情報を一元管理する制度。国民の利便性の向上や行政の効率化、公平・公正な社会の実現を目的に、平成28年1月から始まる。

問 電気自動車用急速充電器を道の駅「花の三聖苑」に整備することのことが無料で使えるのか。

答 企画観光課長 現在、伊豆半島西海岸には電気自動車用急速充電器がないため整備を行うもので、急速充電器の使用料徴収は考えていない。整備に要する事業費の財源のほとんどは県など他からの助成金を充てる予定。

電気自動車用急速充電器とは
電気自動車の普及により全国で整備が進み、現在、伊豆半島には6箇所整備されている。およそ35分から45分で80%の充電が可能となる。

雲見集落排水事業 特別会計補正予算

補正予算(第1号)は、機器の経年劣化によつて監視通報装置の交換が必要となり、そのための経費を486万円増額した。

条例の一部改正

◎松崎町税条例等の一部を改正する条例

地方税法の改正に伴い、条例の一部を改正するもの。10月からの法人町民税の税率引き下げと、自動車取得税率の引き下げ等に伴う軽自動車税の税率を平成27年度から引き上げる。

問 法人住民税法人税割の税率が引き下げられるが、当町への影響は。

答 窓口税務課長 今回の税率改正の目的は、法人税割収入の多い自治体と当町のように少ない自治体との税収格差を是正するもの。これにより当町の場合、地方交付税が増額される見込みである。

◎松崎町営宿泊施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」の利用許可について新たな規定を設けるとともに、利用許可の取り消しを加えるもの。

問 水上バイク利用者等

への今後の対策は。

答 企画観光課長 伊豆まつぎ荘において、水上バイク利用者や入れ墨をしている者等に対し利用を許可しないことができることとした。今後、館内に表示するとともに、観光協会と連携し、町内の宿泊施設にも同様の対応をするよう、お願いしていきたい。



6月定例会議場

平成25年度
企業会計決算
決算の概要は広報ま
つざき7月号をご覧ください。

水道事業

問 給水人口の減少により水道事業会計が厳しくなっていく中、今後、必要とされる水道整備事業を支えきれぬのか。

答 生活環境課長 必要な水道整備事業については、事業の優先順位をつけるとともに、経営状況を見ながら行っていく。

問 企業債元利償還金における料金収入及び減価償却費の占める割合が年々悪くなってきているが、その対策は。

答 生活環境課長 対策としては繰上償還が考えられる。しかし、そのためには保証料も支払わなければならないので、水道使用料収入の状況を見

ながら考えていく。

問 水道事業基本計画を策定したが、人口が減少していく中、どのように盛り込み、どのくらい先を見込んでいくのか。

答 生活環境課長 基本計画では、30年先の給水人口と有収水量がどう変化していくのか推測し、それに対する対策を盛り込んでいく。

温泉事業

問 近年、温泉の新規加入者がなく、このままでは温泉事業会計に影響を及ぼすが、その対策は。

答 生活環境課長 新規加入者の促進については、現在、公営企業委員会へ具体策を提示し、内容をご協議いただいている。内容がまとまり次第、皆さんにお知らせしていく。

問 過年度未収金の内容は。

答 生活環境課長 未納者は7名で未収金額は560万円となる。未納者には分納計画を立ててもらい、未収金額の減少に向けて取り組んでいる。

まつざき荘事業

問 今の経営状況を打開するための基本は、宿泊客を多く取ることだと思うがどう考えているのか。

答 企画観光課長 ご指摘のとおりで、積極的なセールスや宣伝活動、宿泊プランの提供を通じて、今後も宿泊利用客を増やしていきたい。

問 経営状況の改善に向けた取り組みは。

答 副町長 公共の宿という強みを紹介しながら教職員共済組合等へ営業にまわっている。情報発信はもちろん、年間を通じてファンを増やすことが経営改善にもつながるので、引き続き努力していきたい。

第2回定例会の賛否状況一覧

件名 / 議員	藤井	福本	佐藤	高柳	土屋	関	斉藤	一瀬	鈴木
	要	栄一郎	作行	孝博	清武	唯彦	重	寿一	源一郎
専決処分の承認を求めることについて（松崎町税条例等の一部を改正する条例）	○	○	○	○	○	○	○	○	×
専決処分の承認を求めることについて（松崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松崎町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松崎町営宿泊施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町一般会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成26年度松崎町雲見集落排水事業特別会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町水道事業会計収入支出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町水道事業会計未処分利益剰余金の処分について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町温泉事業会計収入支出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町温泉事業会計未処分利益剰余金の処分について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：賛成 ×：反対

工事の効果などをチェック ～議員会町内視察～

議員会は6月5日、平成25年度に施工された工事箇所の中から7箇所を選定し、現場視察を実施した。

また、津波避難タワーの建設予定地、雲見集落排水処理施設についても併せて現地確認を行った。主な視察箇所は次のとおり。

◎道部老釜（おいがま）地区津波避難路整備工事

工事費 289万1700円
 施工業者 (有)佐藤土木
 工事概要 施工延長72・85^尺、階段64段、転落防止柵53^尺、石積9・47^m。
 海拔1・4^尺前後である当該地区に、海拔18^尺までの避難路を手摺付きで整備した。
 避難路があることを周

知するための誘導看板の設置や、夜間及び停電時にもスムーズに避難できるように、照明装置の整備を担当課へ要望した。



道部老釜(おいがま)地区津波避難路整備工事

◎松崎地区浸水対策マンホールポンプ場築造工事

工事費 255万1千800円（うち国庫補助金204万2千600円）

施工業者 (有)原田建設
 工事概要 マンホールポンプ設備据付ほか。
 大雨時の浸水対策として、平成23年度から排水管等の整備をし、平成25年度のポンプ場築造により完了した。自動運転であり、70^{リットル}/時の雨量に対応可能である。

◎生涯学習センター外壁等改修工事

工事費 158万3千710円
 施工業者 伊藤建設工業(株)
 工事概要 シーリング647・6^尺、外部吹付627・8^m、内装改修ほか。
 外壁等の老朽化によるひび割れなどの改修工事を実施した。

◎町道桑原線改良工事

工事費 131万6千700円
 施工業者 (有)原田建設
 工事概要 施工延長5・95^尺、ブロック積27・3^m。

既存の石積が地下水などの影響で崩壊する恐れがあったため、ブロック積みや排水管の設置を行った。

◎岩地公衆トイレ整備工事

工事費 129万6千640円（うち県補助金820万円）
 施工業者 (有)高建築設計
 工事概要 多機能トイレ1棟。



整備された岩地公衆トイレ

既存の公衆トイレを取り壊し、障害のある人の利用にも対応した多機能トイレを新築した。トイレ前の足洗い場には常時山水が出ており、海水浴客等に配慮された設計となっている。

◎津波避難タワー建設予定地

津波避難タワーの建設予定地（西区）を視察した。

避難タワーが建設されることにより、地区住民や観光客等の不安軽減につながることを期待される。

◎雲見集落排水処理施設

平成24年度に改築工事を実施された、雲見の集落排水処理施設を視察した。
 地元住民にとって重要な施設であることから、設備等への管理徹底と、今後の塩害対策についても検討するよう、担当課へ要望した。

町政を問う



高柳 孝博 議員

問

減災と町おこしの行動を

答

体制作りと行動計画で



避難所となっている勤労者体育センター（道部）

問 大綱にもとづいての減災の具体的な行動計画は。

問 なぜ地区防災計画を作らないか。

問 人口減と少子高齢化は結婚・子育て支援で

答（町長） 行動計画は、遅れてはいるが取り組み項目（10施策56アクション）は固まり、数値目標や達成時期の早期策定を目指す。

答（町長） 策定にはもう少し時間がかかる。自主防災会への研修・訓練と児童生徒への教育を実施していく。

問 消滅する可能性のある町との発表があったが、その対策は出生率の向上、女性、高齢者、若者の活躍の場をつくり、長期ビジョンを持って推進することであるがその取組は。

問 なぜ町の復旧シナリオを作れないのか。

問 仮設住宅設置の事前検討は。

答（町長） 平成34年に人口7千人を目標に、農林水産業の基盤整備や商工業・観光業の振興で雇用と産業の創出を図る。少子化対策は、婚活事業の開催や子育て支援、医療福祉体制の確保に努める。

答（町長） 町独自のシナリオ作成には労力も時間もかかる。県のシナリオを参考に町の対応を予測し、防災・減災体制の整備を進める。

答（町長） 必要戸数は185戸で、伏倉19戸、道部町営グラウンド94戸では不足するので、民有地の利用も検討する。

問 町おこし体制と行動を3つの組織の連携で

問 BCP（業務継続計画）の緊急業務は課を超えて職員が使えるように。

問 町おこし体制は、責任者と方針を体系づけ、工程を定めて進めるべきである。行動がなければ成果はでない。

問 一つの自治体が全てをやるフルパックのサービスが難しくなってくる。拠点とネットワーク化・連携協約の考えは。

答（町長） 訓練を重ねながら問題点を洗い出し、職員の意識高揚を図っていく。

答（町長） 町内研修、ビルドアップミーティング、推進委員会会議など3つの組織の連携で「日本で最も美しい村」作りを推進する。

答（町長） 現在、西豆自治会や消防署、衛生プラントは広域で実施している。今後、教育委員会などできることは進めていきたい。

問 避難所運営マニュアルを地域で使えるように。

答（町長） 避難所の訓練を通して実施していく。

実施していく。

問

歴史的・文化的建造物の管理は

答

制度も活用し保全管理を



藤井 要 議員

に草刈りを行うなど具体的に要望書を上げる予定。また地区の皆さんと協働で管理するシステムもあるので、それらを有効に活用していきたい。

問 園舎建設、議論不足では

答 早期統合を目指す

問 幼稚園の建設に係る教育施設等整備検討委員会の答申が出たが、4月に委員が3分の2も入れ替わり、十分な議論がされたのか疑問である。30歳以下の人口比率は中川21%に対して岩科8%であり、下田との動線や今後の人口減少を考えると、急ぎ過ぎた結論ではないか。

問 町長は、幼保分離論について頑なである。分離論を貫くのであれば、耐震性に欠ける聖和保育園を建設するのが先ではないか。

答 (町長)

聖和保育園とは、何回も協議している。基金の関係などもあり、旧中川小学校敷地内に建設することが適当と考えるが、校舎や幼稚園もあるためどのように整備していくか検討をしている。

問

西伊豆と連携強化を

答

事業協力柔軟に対応

問 共同調理場、火葬場等の建設など、今まで以上に西伊豆町との連携が必要では。

答 (町長)

厳しい財政状況を踏まえて、両町で出来ることはやる方向で話し合いをしている。

問 松崎町は歴史と文化の町、「わび・さび」のある町と言われているが、過去をイメージした漆喰の常盤大橋はカビだらけ、未来をイメージした浜丁橋はサビだらけ、時計台の脚部分は簡単に穴が開く状態。何か未来の松崎町を暗示しているような気がするが。

答 (町長)

施設の修繕や工事などについては、状況や予算を見ながら対応している。

「日本で最も美しい村」連合に加盟したこともあり、今後とも施設の管理については積極的に取り組んでいく。

問 伏倉橋から宮の前橋間の県道沿いの花壇や那賀川を見ると、草や葎が生い茂っている。せめて桜や花畑の季節に合わせ

て刈ることはできないか。

答 (副町長)

管理者である静岡県に對して、観光シーズン前

委員会の反省点など、いろいろあると思うが、旧岩科小学校敷地が適地であるとの答申をいただいたので、早期統合を目指して進んで行きたい。



建造物の保全を（過去をイメージした「ときわ大橋」）



子育て支援策の実は（中川園泥遊び）



佐藤 作行 議員

問 人口減少対策の現状は

答 出来る範囲での対策を実施

問 町の人口減少対策の現状と、子育て支援の実は。

答（町長）

従来から実施している児童手当、こども医療費助成、不妊治療、妊婦検診助成、各種予防接種等を継続するとともに、新たに保育時間の延長、電話による子育て相談、奨学金の利子補給などを企画し、出来る範囲での対策を実施している。これらの支援の成果については、もうしばらく時間をいただきたい。

問 幼稚園、保育園の保育料や給食費の無料化等に対する考えは。

答（町長）

教育や保育の運営に係る費用のほか、給食についても町が負担している部分が相当あるので、保育料や給食費等の無料化については、現在のところ考えていない。

問 高校生の医療費無料

化は。

答（町長）

こども医療費の無料については、義務教育の終わる中学校までと考えており、今のところ予定していない。

問 老人会・女性会の存続は

答 時代の流れで活動が変化

問 地域の人口減少や高齢化で、老人会や女性会の存続が難しい地区が出て来ている。それに対する町の基本姿勢と対策は。

答（町長）

老人会や女性会の活動が衰退することは寂しいことだが、それに代わって高齢の方はシルバー人材センターでの活動やグラウンドゴルフなどの趣味を楽しんでいただき、女性会会員の方についても日赤奉仕団、地区サロン、花の会などのボランティアに加入し、地域貢献をしていただけたらと考えている。

問 由緒ある姉妹都市との縁組は

答 検討していきたい

問 新たに当町と由緒ある姉妹都市との縁組の考えは。

答（町長）

町には、掛川藩の陣屋とか会津藩士が教鞭をとった謹申学舎など歴史的に関係のあるところや漆喰鍍絵を有する全国の市町との関係もある。また富士山の世界文化遺産登録を契機とした民間レベルの交流も始まっており、今後、相手側とも相談しながら縁組を検討していきたい。

問 併せて災害時の援助協定締結や伊豆まつぎき荘への誘客を図っていく考えは。

答（町長）

災害時援助協定の締結を行い、その場合は、伊豆まつぎき荘への誘客についても検討していく。

問 即刻解決策を提示せよ

答 今議会後、なるべく早く交渉



鈴木 源一郎 議員

問 岩地入口の星山線崩

落事故で、町長は3月議会で「近々被災者に解決策を示す」と答弁したが、その後3カ月を経過しても、被災者には何の対策も示していない。すでに我慢の限界をはるかに超えている。即刻解決策を示すべきだ。

答 (町長)

現場に適した様々な工法や工事費、負担条件等について、案がほぼ出来上がったので、なるべく

問 要介護1・2を除外

答 自宅生活の工夫を

問 今、国は要介護1・

2の認定者を施設入所の対象から原則除外し、その部分の介護サービスを市町村に丸投げしようとしている。これに対し、全国の200を超える市町村議会から「その受け皿はない」との意見書が出されている。わが町も反対の声を上げるべきだと思うが。

答 (町長)

今回の改正は、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう医療、介護、生活支援、介護予防を充実させるもので、特に介護予防を地域ごとの実情に応じてサービス提供ができるように見直すものである。

改正によって要介護1・

2の方が基本的に施設入所できなくなるのは、自宅で過ごせるよう創意工夫を促すことが目的で、

認知症など常時支援が必要な方については従来どおり入所可能となる。こうした対応により、むしろ重度要介護者の施設入所の待機時間が短くなる効果もあるのではないかと考えている。

問 今回の改正は、今までにない大きな改悪ばかりだ。介護給付の自己負担は現行1割だが、所得制限つき2割を導入しようとしており、その範

答 (町長)

高齢者の増加や状況の変化に対応するための制度見直しは必要である。高所得者への負担増は中・低所得者の負担増の抑制に繋がる。

囲をもっと広げようとしている。該当者の家計は圧迫されてしまうのではないか。

答 (町長)

高齢者の増加や状況の変化に対応するための制度見直しは必要である。高所得者への負担増は中・低所得者の負担増の抑制に繋がる。



介護サービスの充実を (いきいき貯筋倶楽部)



野生鳥獣肉の活用は（伊豆市の食肉加工センター）



福本 栄一郎 議員

問 町政史上初の副町長は

答 新しい風を期待する

問 当町では全国的に例外なく、典型的な過疎化が急速に進行しており、自治体の存続が危ぶまれ、町の消滅も危惧されている。そんな中、松崎町政史上初めて静岡県職員から副町長を起用したが、期待することは。

答（町長）

当町のような小規模な自治体では、人材面や財政面で十分な対応ができず、住民サービスが滞る場合も考えられる。県の人的資源を得て行政力を高め、県と一体となって住民サービスの向上を図る必要があると判断した。県との連携強化、外から見た松崎町の魅力を磨く取り組みなど、新しい風を吹かせてもらう。

問 過疎化が進む中、副町長に対して何か特命事項を与えたのか。

答（町長）

特命事項は与えていない。副町長は農業等に詳しいので、第1次産業を

活性化してもらいたい。

答（副町長）

松崎町の知名度をアップしていったって、いろんな産業振興あるいは町民の皆様の幸福度に繋がるような取り組みをしていきたい。

問 教育長の選任は

答 教育をけん引する人を

問 西伊豆町では、教育長も同様に静岡県職員からの起用である。

当町の教育長の任期は本年9月30日となっているが、教育長の選任についてどのように考えているのか。

答（町長）

松崎の教育をけん引していただける方を選任していきたい。

問 野生鳥獣肉の活用は

答 考えていない

問 鳥獣害対策として、野生鳥獣肉（ジビエ）活用の考えは。

答（町長）

伊豆地域全体で2万頭が生息していると推定されるニホンジカについては、県の管理捕獲で昨年度約2800頭が捕獲されている。伊豆市では、捕獲されたシカやイノシシを有効利用しようと、全国的にも珍しい公設・公営で食肉加工センターを設置しているが、現在のところ当町での設置は考えていない。

問 第1次産業の担い手確保の方策は。

答（町長）

農業分野においては、国の青年就農給付金や、町の農業後継者対策奨励金により、新規就農者を確保すべく支援している。今後とも経営感覚を持ち、チャレンジする新規就農者を支援していきたいと考えている。

議会のうごき

4月

- 3日 広報編集委員会
- 10日 広報編集委員会
- 17日 議会だより103号発行

5月

- 2日 西豆自治会
- 21日 賀茂郡町議会議長会
(西伊豆町)
- 23日 静岡県町村議会議長会総会
(静岡市)
下田地区消防組合議会臨時議会
- 27～28日 全国町村議会正副議長研修会
(東京都)

6月

- 3日 静岡県地方議会連絡協議会研修会
(静岡市)
- 4日 議会運営委員会
議会全員協議会
広報編集委員会
- 5日 議員会町内視察
- 10～11日 第2回定例会



この人に
聞きました②
西豆正吟会
会長 阿部美保さん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。2回目となる今回は、西豆正吟会の会長、阿部さんにお話を伺いました。

詩吟を始めたきっかけは、松崎へ来た時に岩科の峰地区に住んでいたのですが、地区で詩吟を広めていた方に勧められたのがきっかけです。

詩吟の魅力は何ですか。声を出すことによってストレス解消にもなります。

すし、元気にもなり健康にも良いです。詩吟をやっているおかげで、今も健康で過ごしています。

詩吟をもっと広めたいという思いはありますか。

大いにあります。子供から高齢の方まで誰でも気軽にできるので、皆がどこでも吟ずる町にしたいと思っています。

松崎町は俳句の町、わび・さびのある町ですが、町中の灯籠に書いてある俳句を吟ずることもできるので、詩吟と俳句を一

緒にやっていけたらと思っています。

これからの議会に対しての要望はありますか。

関心を持つのが一時だけという人が多いと思いますが、情報をもっと公にしてもらって、常に興味を持つていただくようにすることが大事ではないかと思えます。

(聞き手 編集委員長)

稲葉議長 静岡県町村議会議長会 副会長に就任

5月23日開催の静岡県町村議会議長会において、稲葉議長が県議長会副会長に就任しました。

発行責任者

議長 稲葉昭宏

編集委員長

藤井 要

編集委員

土屋清武 鈴木源一郎

一瀬寿一 斉藤 重

高柳孝博

海鳴り

今定例会の焦点は、伊豆まつぎき荘の平成25年度決算の認定であった。12月定例会で指定管理者を振興公社とすることを議決した後の案件であり、審議を一層深めなくてはという思いは、議会として当然である。

平成25年度も3600万円の損失となり、この状態が続くと平成26年度からは内部留保資金が枯渇する。そうなる一般会計から補填することになるが、公的な責任は益々重くなる。公営事業の難しさは議会も痛感しているからこそ、慎重を期したものだ。選択肢はいろいろある中で、あえて町長は「松崎のシンボル」として現状を固持した。こうした五里霧中の時こそ、斉藤町長の手腕にかかっている。議会は万策尽きて、しばらく静観するしかない。(議長)